

JAICOH NEWS LETTER

NO:47 2005年5月発行



歯科保健医療国際協力協議会
Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局: 〒344-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel&Fax: 048-957-2286
発行: 深井穂博 編集: 楢崎正子、梁瀬智子

ボランティア活動を振り返ってみて

埼玉県坂戸市開業 時田 信久

1992年ヴァヌアツに医療を送る会に参加したのが私の活動の始まりでした。学生のころから皮膚科の教授に中国での医療活動を薦められてたのですが、実際中国へ行ってみると裸足の医者というのが結構活躍しており、簡単な処置はしていて不自由無い状態のようでした。そんなことを忘れていた頃、ヴァヌアツの話が入り参加したのです。6年間で7回参加したところで大阪のグループから独立して埼玉の仲間達と南太平洋医療隊を発足し、トンガでの活動が98年に始まりました。最初の2年位は王立のヴァイオラ病院で現地の歯科医師と共に治療しておりましたが、どんな活動がこの国のためになるかすごく悩んでおりました。当時は歯科医師は少なく、歯科セラピストが治療していて、根管治療ができないため、子供の永久歯でも簡単に抜歯しておりました。

そんなことからまず子供達から歯を守るために幼稚園、小学校において、歯科衛生活動、フッ素塗布を始めたわけです。なかなか現地の歯科医師の協力を得るのが困難でしたが、少しずつ若い歯科医師が増えてきて我々の活動に賛同してくれ強い味方となってくれました。

私の考えとして、活動において「魚を与えるのではなく魚の釣り方を教える」というのが大事なこととっております。現地では口腔外科の先生がいないため現地のシシリア先生を日大松戸に留学させ日大と鶴見大でお世話になり、もう4年たっております。我々が4日位現地に滞在してもできることはほんのわずかで、まったく役に立ちませんが、将来シシリア先生が今までニュージーランドに送っていた患者をトンガ国内で手術することが出来れば国民はどんなに助かるでしょう。1年中、近くに口腔外科医がいるので安心です。我々の活動がきっかけで、今度、日本政府のご好意により王立ヴァイオラ病院が建て直されることになりました。これも嬉しいことです。

開業してボラティアをしようと思って無理して一週間休んで行っても4日活動できれば長いほうです。これだと実際現地の住民にとってはあてにならないのです。私が活動をリタイヤしたのは、今しっかり働いて早く開業医をリタイヤしてゆっくりボランティア活動したいという思いからです。現地の多くの若者は夢の無い毎日を送っています。若者を日本に連れてきて歯科医師や看護師にすれば帰国してからも毎日活躍してくれます。でも、これもできませんでした。歯科医を日本に留学させることはできました。あとは自立させることです。いつまでもただ援助してはいけません。今、衛生活動は現地の歯科医と学校の先生が続けております。自分たちでやって行けるよう指導していかなければいけないと思います。そんなわけで私はひとまず南太平洋医療隊の代表を辞めました。幸い活動は続いています。ひとまず私の仕事は終わったと思っております。

<筆者プロフィール>

城西歯科大(現明海大卒) 1992年よりヴァヌアツに医療を送る会に参加。ヴァヌアツに歯科医療を育てる会を



経て1968年南太平洋医療隊を発足し2003年に会長及び活動から辞する。

里親制度「KADVO ハートペアレンツ」事業について

KADVO 神奈川海外ボランティア歯科医療団
専務理事 河野 伸二郎

私共 KADVO では、今年より新しい事業を始めましたので、ご紹介させていただきます。20 数年にわたりフィリピン、タイにおいて口腔歯科保健関連のボランティア活動を行ってきました。衛生士の長期派遣による地域フッ素洗口事業や口唇口蓋裂手術プロジェクト等一定の成果は得られたと思います。これらの事業は勿論さらに充実させ継続してゆきますが、歯科関連の事項にとらわれず関わらせていただいた地域になにか社会的に貢献できればとの思いより、里親制度「KADVO ハートペアレンツ」事業を立ち上げました。

里子達に自転車をプレゼント



KADVO ハートペアレンツ制度は、貧困のために教育の機会に恵まれない子供達に修学を支援する国際教育里親システムです。KADVO と現地支援団体が協力して行う就学支援活動にハートペアレンツ(里親)として参加して頂き、現地で生活する子供と手紙のやりとりや、現地への訪問などをおして交流して頂きます。

そして、ペアレントとなられた皆様にはただ「気の毒だから援助してあげる」ではなく、彼等との交流と相互理解のなかから何かを学んで頂けたらと思います。



孤児院にて里子達と

また、学費は確保できたとしても、学校へ行くためには生活面での支援が必要となる場合もあります。彼等の通う学校に施設面で不備がある場合(口腔衛生教育等で KADVO がサポートしている小学校には上下水道、トイレがありません)や現地で子供たちを受け入れている施設が経済的な面で苦しい運営状態にある場合も多々見受けられます。このような学ぶ環境の諸問題を周辺から支援していくことを目的としたサポートシステムとしてマンスリーライフサポーター制度もあわせて立ち上げさせて頂きました。

ご興味のある方はぜひ事務局までお問い合わせください。現在すでに数十名の子供達が支援を受けております。詳細につきましては、次回報告させていただきます。

<筆者プロフィール>

昭和 60 年 3 月神奈川歯科大学卒業
昭和 63 年より海外ボランティア活動に参加する。
現 KADVO 専務理事 口唇口蓋裂手術プロジェクト担当
医療法人 横浜厚生会 河野歯科医院院長
社団法人 横浜市歯科医師会専務理事



特定非営利活動法人 歯科医学教育国際支援機構の活動について

歯科医学教育国際支援機構理事長 宮田 隆

歯科医学教育国際支援機構(Organization of International Support for Dental Education: OISDE)は2002年8月にNPO登録した若い団体ですが、私自身は1991年からカンボジアのヘルスサイエンス大学歯学部にて教育貢献を続けてきましたから、国際支援活動としては比較的長い経験があります。私は長く大学で歯周病を教えていましたので、その経験を活かし、OISDEを設立以来、カンボジアは勿論、メキシコ、キューバ、グアテマラ、中国、ラオス、タイ、インドネシアなど数多くの国で特別講義を行ってきました。2003年度には、外務省のNGO支援無償資金協力(東ティモールの歯科医療復興プロジェクト)とJICAの市民参加型国際協力事業(カンボジア Stung Treng 県における歯周病プライマリー・ヘルス・ケア)に、2004年度にはJICAの草の根技術支援に採択され、私自身と会員の沼口麗子氏と共に一年間、「カンボジア村落地域に対する歯周病による全身被害の予防とプライマリー・ヘルス・ケア」というプロジェクトを実施してきました。日本には医療系のNGOは本当にたくさんあり、歯科系のNGOも決して少なくありません。しかし、その多くは短期間、対象とする地域にボランティアとして活動する「短期集中型」か、現地のスタッフに経済的支援をする「後方支援型」が多いようです。



卒後研修生へのオペ実習

しかし、OISDEのスタンスは積極的に公的支援を得て、社会に認知された支援活動をしよう、というものです。そういう方向にスタンスを定めたのは、やはり政府機関との様々な交渉を介してでした。歯科は政府機関にとってプライオリティが大変低く、ほとんど無視された状態でした。実際、過去に公的資金によって実施された大きな歯科系のプロジェクトは、私の知る限りスリランカでのペラデニア大学歯学部支援、口蓋裂治療に対する支援くらいです。しかし、私はJICAや外務省の担当者に歯科

疾患、とりわけ専門である歯周病が全身に与えるダメージについて熱く語りました。最初はけんもほろろの担当者も次第に理解してくれ始め、最近では、熱帯感染症と同じベースで歯周感染症を考える高いプライオリティとしての位置づけをしてくれるまでになりました。私は、一応学者の端くれですから「自己満足」と言うのが嫌いです。ややもするとNGO活動は自己満足に陥りやすいものですし、実際、そういう人たちもたくさんいます。しかし、どんな国際貢献もある社会性をもって活動すべきである、というのが私たちの基本的なコンセプトです。そういう意味で、公的支援を受けると言うことはそれなりの社会的責任と成果を求められますが、厳しさと同時に社会参加をしているという充実感が得られます。私たちの団体は人材育成を第一義的な目的にしています。カンボジアで2003年10月から始めた歯周病専門医養成コースはそう言った意味で大変大きな成果があったものと考えています。このコースは保健省とヘルスサイエンス大学が認定したカンボジアで初めての専門医養成コースですが、これは私自身が主宰し、80回に亘る講義と実習を14名の研修医に対して行い、この3月29日、全員試験に合格しサティフィケートの授与式が開催されました。東ティモールでは、歯科医師がいないため、デンタル・ナースに対して教育をしてきました。ラオスでは、ラオス国立医科大学とパートナーシップを結び、医科と歯科が組んだトータル・ヘルス・ケアを実施し始めようとしているところです。OISDEの活動は、現在カンボジア、ラオス、東ティモール、インドネシアそしてラテン・アメリカに絞ってプロジェクトを実施していますが、やはり実際の現場で活躍してくれる人材を見つけるのは大変です。是非、JICOHの会員の皆様にも参加をお願いします。私たちの活動はホームページで詳しくご覧になれます。

<http://www.mmjp.or.jp/oisde/>

<筆者プロフィール> 日本大学歯学部卒業。母校歯周病学講座、明海大学教授、病院長を経て2002年3月明海大学退職。歯科医学教育国際支援機構設立。1991年よりカンボジア、ヘルスサイエンス大学に対する教育支援を開始。現在、カンボジア、ヘルスサイエンス大学歯学部、中国第四軍医科大学、ラオス国立大学医学部、メキシコ州立自治医科大学などで客員教授を務める。

歯科医学教育国際支援機構 2004 年度活動報告会が開催されました

OISDE (歯科医学教育国際支援機構) 沼口 麗子

2005 年 4 月 24 日(日) 独立行政法人 国際協力機構(JICA)東京国際センターにおいて、歯科医学教育国際支援機構(OISDE)の 2004 年度活動報告会が開催されました。午前中は会員による活動報告としてインドネシアとの教育交流—柳沢宗光(調布市開業)、聖路加国際病院のボランティアへの取り組み—村田千年(聖路加国際病院歯科口腔外科勤務)、タイの歯科医療事情—篠木毅(川口市開業)、ラオス少数民族に対するトータルヘルスケアの提言—中島幸一(トータルヘルスケア研究所所長)、カンボジアスタディーツアー報告—田中宏和(日本大学松戸歯学部国際保健部 5 年次在籍)の 5 演題が、それぞれのフィールドで大変有意義な活動を紹介してくれました。

ター次長 笥 克彦氏による「進化・拡大する国際協力」という演題で、JICA がどういうコンセプトで国際貢献に寄与しているかを具体的かつ戦略的な部分にまで踏み込んだ特別講演がありました。

PDF 化にあたり写真はエラーが出てしまうため削除してあります。申し訳ございません。

PDF 化にあたり写真はエラーが出てしまうため削除してあります。申し訳ございません。

笥氏の講演風景

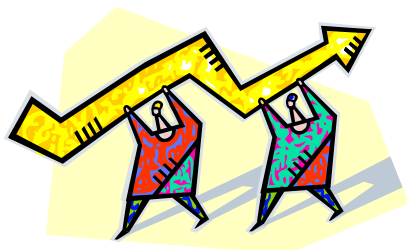
また、講演後の質疑応答では座長が打ち切るほど大変活発な議論が展開しました。当日は OISDE の会員、一般の方々、歯学部学生など約 80 名が参加し活発な質疑応答が行われました。OISDE は会員個人の活動、OISDE 独自の活動を含め、現在、インドネシア、東ティモール、タイ、ラオス、カンボジア、メキシコ、キューバと活動の場が拡大し、また、2004 年度は外務省や JICA から公的支援を受け、歯科系 NGO としては高いアピリティを持っていきます。今後の OISDE の活動に注目していきたいと思っています。

活発な質疑応答風景

午後は、外務省 NGO 無償支援によるプロジェクト「東ティモールにおける歯科医療支援報告」—深川 周(高山歯科医院勤務)、「カンボジア保育園児への歯科医療支援」—沼口麗子(沼口歯科医院副院長)、JICA 草の根技術支援型プロジェクト「カンボジア村落地域に対する歯周感染症による全身被害の予防・啓発及びプライマリーヘルスケア」—宮田 隆(OISDE 理事長)の 3 人の報告があり、最後に JICA 東京セン

< 筆者プロフィール >

1978 年岩手医科大学歯学部卒業。東京厚生年金病院勤務を経て、現在沼口歯科医院副院長。1998 年からネパール歯科医療協力隊の一員としてネパールで歯科医療活動に参加。2004 年 4 月から 1 年間歯科医学教育国際支援機構(OISDE)の一員としてカンボジアのポンペンに滞在し、JICA 草の根技術支援型事業に参加。



ネパールで感じたこと

九州歯科大学5年 中村麻里子(ネパール歯科医療協力会18次隊参加)

ネパールから帰ってきた今、何か変わったかといわれれば、はっきりとあれとこれと…とは説明できないが、なんとなく自分に変化があったことは確かだ。今振り返ってみると、「ネパールの人の役に立ちたい！」と強く思って参加したというよりもいろんな経験をしているようなことを吸収したい、又、自分でやろうと決めた新しいことにどれだけ自分はやれるのかと少し知りたくて参加したような気がする。そんなこんなを踏まえて今ネパールのことを思い出してみても、やっぱり本当に行ってよかったと思う。



出発以前、ネパールの歯科事情をある程度、講義や本で勉強して行ったつもりだが、やはり実際に自分の目で見てみて驚いたことが沢山あった。それはまず、私の出発前の想像では、いろんな写真を見てもネパールの人の口の中は日本では見られないような大変な状態になっていると思っていたので、意外ときれいで、特に子供の歯は本当にきれいにできて驚いた。ちゃんと親や学校の先生から教育を受けているのだなと学校をまわったとき思った。



又、一番印象に残っていることはネパールの人がネパール人の患者の治療を手伝っている光景だ。セメントを練ったり、たまに口の中を見たりしているのを見るとなぜか少しうれしくなった。もっと浸透して日本人がいなくても治療もできるようになったらいいなと思ったと同時に、ここまで何年もかけて活動を進めてきたADCNの隊員の皆さんはすごいと思った。18次隊の活動では本当に書き出すときがない程、色々なことをさせてもらい、毎日毎日がすごく新鮮だった。診療ではちょうど学校の実習でやっていたことを間近で見ることができたし、その土地にあった治療法などを教えてもらって本当に勉強になった。学校をまわった時は子供たちの笑顔や診察を嫌がる子のくしゃくしゃの泣き顔が本当に忘れられないし、言葉の壁を感じないくらい何か通じ合えた気がした。本当にどんな小さなことでも、毎日毎日新しい発見や、新しい経験があつてあつという間の二週間だった。私は大学に入って、「早く卒業したい！」などと思ったことは一度もなかったのだが、今回この18次隊に参加し、皆の活動する姿を見て早く歯科医師になりたいと始めて思ったし、やはりこの道を選んでよかったと思った。



ネパールはまだなかなか簡単に歯の治療に行けるわけではないが、少しずつ努力して環境を整えようとしている。それが村の人々まで浸透していくのはまだ時間が沢山かかりそうだが、ネパールの人たち皆が健康に暮らせていけたらいいなと強く思う。

第16回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術大会のご案内

- ◆会期 2005年7月3日(日曜日) 午前9時半受付開始 午後5時より懇親会
- ◆場所 昭和大学歯科病院臨床講堂(6F) 東京都大田区北千束2-1-1
最寄駅 東急目黒線洗足駅下車徒歩2分(目黒洗足間約8分) 東急大井町線北千束駅下車徒歩5分
- ◆会費 千円(資料・懇親会費を含む)

皆さん奮って
ご参加下さい!



編集後記

新年度、最初のニュースレターです。今回は長年の活動にひとまず区切りをつけられた時田先生、仕事と活動の両立の難しさ、時間的制約がつきまとう活動の不完全燃焼感・正直な思いの詰まった文章に本当に共感を覚えました。KADVOの河野先生からは活動地域で歯科以外でも社会貢献をしたいという思いから始まった里親事業について、歯科医学教育国際支援機構からは宮田先生より活動紹介、沼口先生からは4月に行われた2004年度の活動報告会の様子と盛りだくさんの内容でお送りしています。個人的な話ですが、学生さんの声に原稿を寄せていただいた九歯大の中村さんとは2週間弱の活動期間中、ずっと同室でした。現地では忙しく、同室といっても部屋には寝に帰るだけだったので大した話もできなかつたのですが、こんな風を感じていたんだ・・とあらためて知りました。いつか立派な歯科医師なった中村さんとネパールに行けることを楽しみにしています!

編集/梁瀬